

2022年度農林水産省行政事業レビュー(公開プロセス)の結果
漁港機能増進事業

<評価結果>

「事業内容の一部改善」

◇ 評価結果

| | |
|-------------|----|
| 現状通り | 1名 |
| 事業内容の一部改善 | 5名 |
| 事業全体の抜本的な改善 | 0名 |
| 廃止 | 0名 |

<取りまとめコメント>

○事業の課題や問題点

- ・アウトカムに関する検討を進められた努力は評価したいが、現在の漁業・水産業をめぐる環境を考えれば、人数を母数とする生産性の把握は事業の成果を誤る懸念があるのではないかと。
- ・設備更新等、漁港の機能増進類似の事業が存在するが、本事業がどの部分の役割を担っているのかが分かりにくい。
- ・省力化や最新設備にすることによるコストカット(=利益の確保)や、就労環境の改善は、担い手確保の観点からも重要であると思われるが、そのような事業との関連性も分かりにくい。
- ・アウトカム等については、現時点では他事業との分担や関係性が見えず、本事業によつての効果なのか判別できない。
- ・事業の内容自体は適切かと思うが、アウトプットからアウトカムの指標がやや不連続であり分かりにくい。
- ・アウトプット、アウトカム(短期、中期、長期)の流れが不明確である。事業実施における課題や目的の明確化のために、これらを整理する必要がある。

○事業の改善の手法や見直しの方向性

- ・「浜の活力再生・成長促進交付金」「水産基盤整備事業」といった他の制度・事業等も含めて、水産業の強化や魅力化といった政策全体の目的に照らした統合的なロジックモデルの作成が不可欠。
- ・本事業だけではなく、水産基盤整備事業、浜活プランなど、漁港の施設の更新・効率化等にかかわる施策の全体像を明確にし、その中で本事業の役割を位置付け、各予算が相乗的に執行されることにより、効果的・効率的に全体が目的に向かっているのかが分かるようにし、その目標に向かって進捗管理できるようなアウトカム・アウトプット指標を置くべき。
- ・高齢者のみでなく、若手や女性の担い手などを確保する観点からも、いろいろな施策が並行して行われていると思われるが、全体像を把握した上で、本事業の位置づけを確認し、他の事業とも併せて、効果的・効率的な予算執行がなされるようにしていただきたい。
- ・事業としては現状通りで問題はないと評価する。関連事業もあり、本事業におけるアウトプット指標とアウトカム指標は改善が必要。短期指標は本事業による指標、長期指標は他の事業合算の指標等。
- ・本事業のレビューという観点からは、短期アウトカムの設定として本事業実施による効果が明確に見えるものとし、評価することが必要と考える。
- ・漁港を含めた漁業の就業環境整備は水産業の生産性向上に不可欠なものであり、ロジックモデルの作成において、本事業の成果の検証が業界全体に波及する(長期アウトカムにつながる)プロセスを作ることが必要と考える。
- ・説明の方法として、アウトプット・短期アウトカム・長期アウトカムが論理的に連続するような形での再検討をお願いしたい。
- ・安定的な漁業生産体制の確保については、机上の検討ではなく、当事者にとって、どのような「望ましいあるべき変化」を求めているのか、といった実際の具体的な状況を踏まえて設定すべき。
- ・安全性や生産性の向上、労働環境の改善等による漁村の活力向上という重要な事業目的達成のために、事業の質向上や効率化のための工夫をしながら事業継続をしていくべきである。